有松に光る麻模様

「ミチアカリ有松」は、有松の住民の有志の方によって企画された祭りです。当初は、不安な部分もありましたが、気づいてみれば、有松周辺に止まらない、数多くのボランティアの支えにより、大成功に幕を閉じました。
私たち名城大学柳沢研究室は、その一部を担当させていただきました。
開催日当日、街道沿いに並べられた竹あかりは、町を照らし、有松にとって特別な１日になりました。

■歴史が蓄積する有松の街並み

有松は、平成 28 年度から国指定の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。旧東海道が東西に通っており、絞商の屋敷や、絞りに関わる諸職の町屋が混在する、特色ある街並みが良く残っています。今回の「有松ミチアカリ」は、西町にあたる場所で開催されました。

有松は、名古屋都心からも近く、魅力溢れる町なので、ぜひ訪れていただきたい町です。

■「ミチアカリ有松」の軌跡

9/7 ーキックオフミーティング

9/20.25 ー竹の伐採

竹を伐採する事から始まりました。約 300 本の竹を伐採し、みなさん汗だくです！

9/20 ～ 10/26 ー穴あけ

有松の西、環状線の下を借り、穴あけ開始！通りがかりの方など、数えきれない方々に参加していただきました。

10/23 ー半田マルシェでの WS

11/4 ～ 11/6 ー名城大学祭での WS

名城大学の学祭で WS を行いました。家族連れや、学生、３日間で延べ 100 人以上の方に参加していただきました。

11/5 ～ 11/9 ー組み立て

ついに組み立て。最後の力を振り絞りラストスパート！水平に立たせるのは、かなりの困難でした。

11/12 ー「有松ミチアカリ」開催日

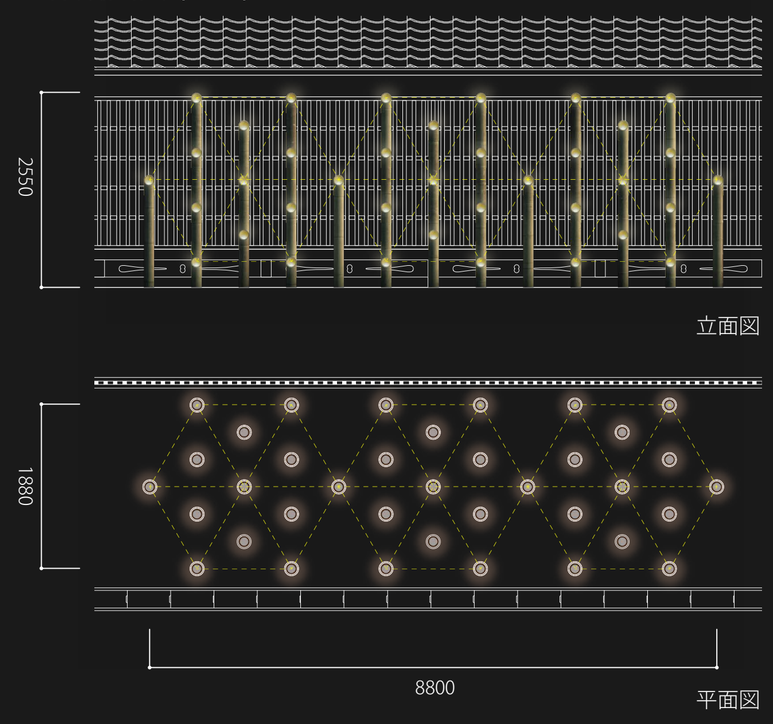
■麻模様によるデザイン

麻模様は、日本独自の文様です。正六角形を基本とした幾何学模様の連続によって形作られています。単純な構成ですが見るものを魅了する文様です。
有松では昔から、「有松絞り」に使われており、馴染み深い文様として知られています。

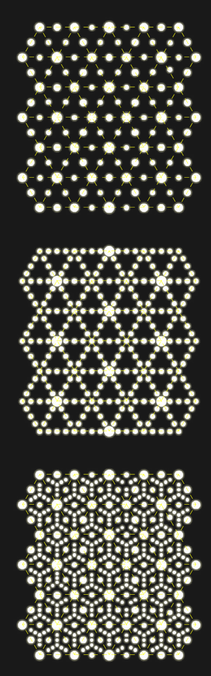
私たちはこの麻模様だけで、竹あかり全てのデザインを決定しました。
配置計画・立面計画・穴の開け方、この全てが正六角形から生まれています。正六角形という隠れた秩序によって、どの角度から見ても、整った美しい姿を見ることができます。この竹あかりは、平面的な文様を立体的に魅せることができました。

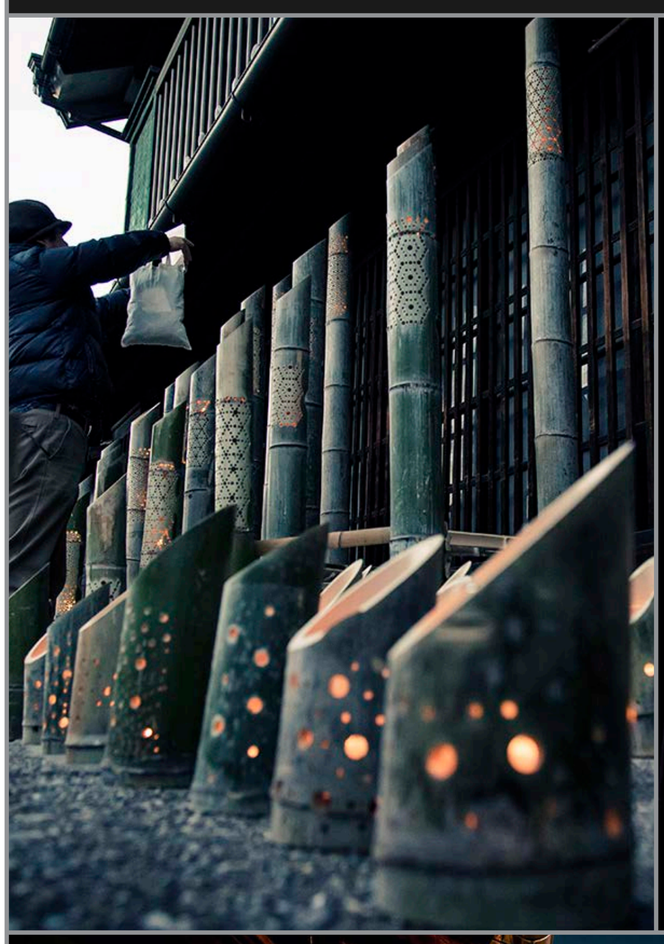
単純な構成と、全てが同じ秩序から生まれていることによってこの竹あかりは、成立しています。

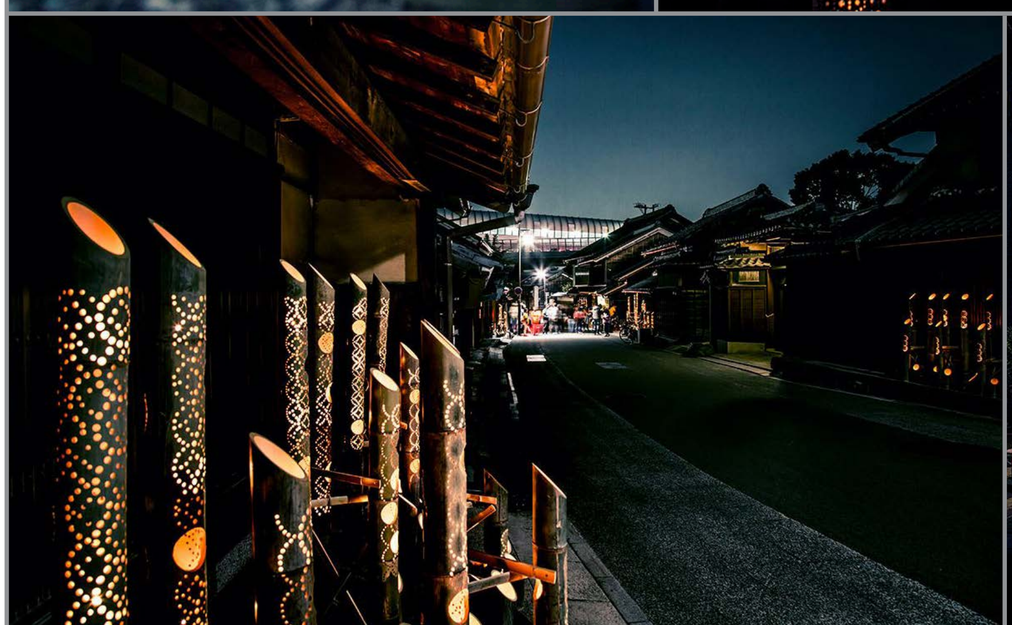
□作成図面 (1:50)



□竹に開けた模様







撮影：新井良規
作成：名城大学 加藤大誠